

## 展覧会 藍のものがたり

このたび、久留米市美術館では、「藍のものがたり」を開催いたします。

藍は、古くから日本で親しまれ、様々な染織技法と結びつき、衣服などの染料として用いられてきました。本展では、江戸時代の宮廷装束や湯帷子にはじまり、精緻な型染めを施す長板中形や絞り・注染などの技法で意匠を凝らした浴衣、藍と白に染め分けた糸で多様な文様を織りなす久留米拵など、藍染めによる染織文化の広がりとその多彩な魅力を紹介します。さらに、伝統と革新を兼ね備えた現代作家やデザイナーの試み、日本古来の藍染め技法に立ちかえって制作された作品など、時代とともに変遷していく藍の「ものがたり」を探ります。

展覧会名	藍のものがたり
会期	2024年7月20日(土) - 10月14日(月・祝) (78日間) *会期中、展示替を行います。 1期: 7/20-8/18、2期: 8/20-9/8、3期: 9/10-10/14
出品点数	展示総数約140件(各期約90件)
会場	久留米市美術館 2階
主催	久留米市美術館、朝日新聞社、テレQ
共催	久留米市教育委員会
協力	公益財団法人久留米拵技術保存会
企画協力	株式会社イデップ
スペシャルパートナー	株式会社ブリヂストン
オフィシャルパートナー	学校法人久留米大学、株式会社筑邦銀行、株式会社森光商店、 喜多村石油株式会社、株式会社ユー・エス・イー 一般1,000円(800円) シニア700円(500円) 大学生500円(300円) 高校生以下無料 前売700円
入館料	障害者の方は手帳のご提示で、ご本人と介護者1名は無料。 ( )内は15名以上の団体料金、シニアは65歳以上。 上記料金にて石橋正二郎記念館もご覧いただけます。 前売券はチケットぴあ、ローソン各店にて会期1ヶ月前より販売。 (Pコード686-811 Lコード86707)
休館日	月曜日(8月12日、9月16日、23日、10月14日は開館)
開館時間	10:00-17:00(入館は16:30まで)
交通案内	JR博多駅よりJR久留米駅まで新幹線で20分、快速で40分 福岡(天神)駅より西鉄久留米駅まで特急で30分、急行で40分
本展に関するお問い合わせ	久留米市美術館 展覧会担当: 原口花恵、森山秀子 〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015(石橋文化センター内) TEL 0942-39-1131 / FAX 0942-39-3134

※開催情報に変更がありました場合には、随時、当館ホームページ、SNS等によりお知らせいたします。

## 展覧会のみどころ

### 1章 藍と染織

日本の伝統的な藍染めに用いられる、<sup>たてあらい</sup>蓼藍の「すくも」。すくもづくりをはじめ、その発酵建てによる染色には時間と労力・技術を要するため、藍染めはかつて限られた上層階級の衣服に用いられるものでした。宮廷装束や紋入りの湯帷子、<sup>はんでん</sup>半纏など藍染めによる染織を江戸時代にまで遡り紹介します。



1. 「縹地青海波文様唐衣（采女装束のうち）」  
江戸時代 奈良県立美術館 \*1期展示

### 2章 藍に染め、藍を織る－久留米絣

江戸時代中期頃、木綿が全国に流通したことにより、麻に替わって木綿が普及していきました。染めやすい素材である木綿と藍の結びつきは、各地で様々な藍染め文化の発展に繋がりました。当時、藍の産地であった筑後の地で生まれた久留米絣は、濃淡のある藍と白の絣糸で織りなす綿織物で、伝統に立脚しながらも今日に至るまで進化を続けています。



2. 松枝玉記「久留米絣着物《花菖蒲》」  
1974年 \*1期展示  
公益財団法人久留米絣技術保存会



松枝玉記「久留米絣着物《雨にあじさい》」  
1982年 \*2期展示  
公益財団法人久留米絣技術保存会



松枝玉記「久留米絣着物《花信虫声》」  
1980年 \*3期展示  
公益財団法人久留米絣技術保存会

### 3章 藍の<sup>いろどり</sup>彩、藍の<sup>かたち</sup>型－浴衣

木綿が庶民の衣服の素材となり、日本の染織における「藍染めの木綿」の一般化に、重要な役割を果たした浴衣を中心に紹介します。型紙彫り・長板による型付け・藍染めという流れで行われる「長板中形」や染料を注いで染める日本独自の技法である「注染」など、様々な技法にも注目します。



3. 「紺木綿地魚河岸模様絞り浴衣」  
明治時代 今昔西村 \*3期展示



4. 松原伸生「長板中形白木綿地鯉流水模様浴衣」〔部分〕2010-19年  
作家蔵 \*1・2期展示



5. 小宮康正(付)、増井一平(型)、山ノ井武之(染)「長板中形白木綿地燕に柳の丸紋模様浴衣」〔部分〕1990年頃 個人蔵

#### 4章 藍染めの伝統と革新

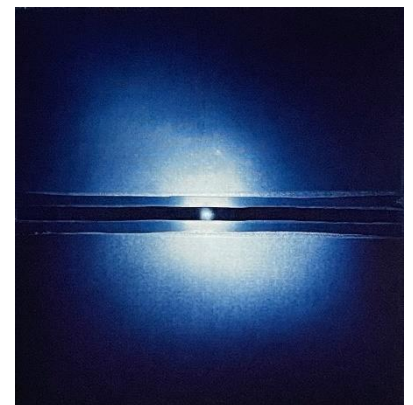
日本の伝統的な染織技術を残すため、藍染めについての伝統と革新を兼ね備えた様々な試みが行われています。

折り縫い絞りをを用いた着尺からインテリア・茶室まで多様なかたちで藍染めを取り入れた創作を行う福本潮子(1945-)の作品、三浦絞りや雪花絞りといった有松絞りの技法を洋服の生地にしたファッションブランド *suzusan* などを紹介します。



7. 福本潮子「光の風景」2023年 個人蔵

6. DOUBLE MAISON/宝島染工  
「白麻地藍染浴衣」2019年  
個人蔵

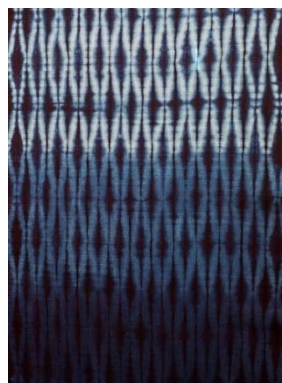


#### 5章 藍に還る

日本古来の色を求めて染色を研究してきた染司よしおかをはじめ、徳島の藍染めの工房などと協力して制作したシリーズを2020年に発表したファッションブランド *matohu* など、伝統的な染色技法に立ちかえって制作する作家たちに焦点を当て、現代における藍染めの姿を探ります。



田中昭夫「紙布藍型染名古屋帯」〔部分〕  
1990年代 個人蔵 \*3期展示



森くみ子「木綿・竹地藍染絞り単衣着物」〔部分〕  
2010年代 作家蔵 \*1・2期展示



## 関連事業

□講座 ※入場無料・申込不要

### ①「重要無形文化財久留米緋と藍」

日時：9月23日（月・祝） 14:00-15:30（開場 13:30）

講師：山村省二氏（重要無形文化財久留米緋技術保持者会会長）

会場：石橋文化会館小ホール

定員：120名（先着順）

### ②「阿波藍について」

講師：阿波藍製造技術保存会

会場：美術館1階多目的ルーム

定員：60名（先着順）

※日時につきましては、詳細が決まり次第、当館ホームページにてお知らせいたします。

□トークイベント ※入場無料・申込不要

「藍のものがたり」展から福岡県立美術館「久留米緋と松枝家」展へ

日時：10月14日（月・祝） 14:00-（2時間程度） | 開場 13:30 |

登壇者：竹村眞一氏（京都芸術大学教授）

十四代今泉今右衛門氏（重要無形文化財「色絵磁器」保持者）

松枝小夜子氏、松枝崇弘氏

会場：石橋文化ホール

定員：1,000名（先着順）

イベント主催：福岡県立美術館（092-715-3551）

□体験 ※要申込

「藍の生葉染め体験」

日時：9月7日（土） 10:00-（2時間程度）

講師：松枝小夜子氏（重要無形文化財久留米緋技術保持者会）

会場：美術館1階多目的ルーム

定員：10名

対象：小学生以上

参加費：1,000円

申込み方法：参加者全員の氏名（2名まで可）、代表の方の郵便番号・住所・電話番号をご記入の上、ハガキ、FAX、またはwebでお申し込み（webでの申し込みは美術館webサイトをご確認ください）。応募多数の場合抽選。

※8月9日（金）必着

※結果は8月19日（月）までにお知らせ



#### □ギャラリートーク

##### ▶担当学芸員

日時：8月25日（日）14:00—14:40

##### ▶学芸員

日時：第1・3日曜日 14:00—14:20

7月21日、8月4日、18日、9月1日、15日、10月6日

##### ▶サポートボランティア

日時：第2・4土曜日 14:00—14:20

7月27日、8月10日、24日、9月14日、28日、10月12日

※集合場所：美術館2階展示室エントランス

※申込不要・要観覧チケット

#### □藍をまとう

藍染めのものを身に着けてご来館いただくと、当日券ご購入の方に限り、団体割引料金でご覧いただけます。

#### 作品掲載に関するお願い

1. 作品掲載をご希望の方は、別紙の「画像利用申込書」にて申請ください。
2. 展覧会の広報を目的とした使用に限らせていただきます。二次使用はできません。
3. 作品の文字のせ、トリミングはできません。
4. 当館が指定するクレジットを必ず作品と一緒に掲載してください。クレジットは別紙の「広報画像利用申込書」をご参照ください。
5. web ページ掲載の場合は、必ずコピーガードの処理をお願いします。
6. 広報用作品以外の画像をご希望の場合は、申込書の「その他」の欄にタイトルを記入してください。
7. 掲載見本を必ず1部お送りください。